

秋 あき

の星座解説

せいざかいせつ



h-x 散開星団



M15 球状星団

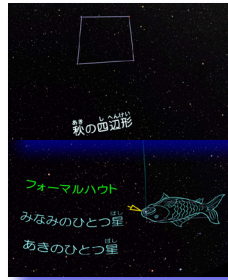


秋の夜空は、ロマンチックな名前を持つ星がたくさんあります。これから、そんな秋の星と、星座たちを紹介していきます。

太陽が急ぎ足で西の地平線に隠れると、あたりはすっかり夜のどばりに包まれます。秋の日はつるべおとし、というように、日の入りから暗くなるまでの時間が短いんです。

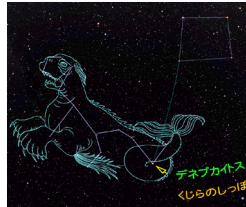
秋の星座の案内役 ～秋の四辺形～

星座を探すときに、一番最初に覚えておきたいのが、方角。でも、もし方角がわからなくても頭の上、高いところを見てみましょう。同じくらいの明るさの星が作る四角形、この星の並びです。これは、「秋の四辺形」。秋の星座の案内役です。



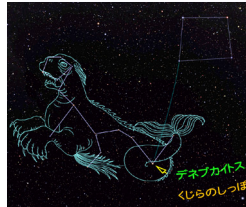
みなみのうお座 ～フォーマルハウト～

四辺形の西側の辺をずうっと低い方にのぼしてみると、ひとつだけ、ぼつんと輝く星があります。秋の夜空でただひとつの一等星「フォーマルハウト」。ひとりぼっちで輝く様子から「みなみのひとつ星」「あきのひとつ星」と呼ばれることもあります。ここには、みなみのうお座という小さな星座があります。



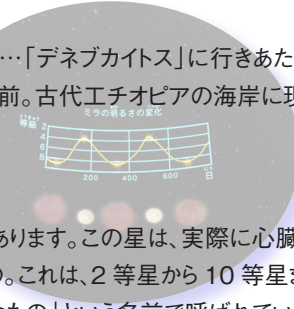
くじら座 ～デネブカイトス～

四辺形の反対側の辺をのぼしてみると…「デネブカイトス」に行きあたりました。これは、「くじらのしっぽ」という意味の名前。古代エチオピアの海岸に現れては、大暴れたという化け鯨の姿なんです。



くじら座の変光星 ～ミラ～

くじら座の心臓のあたりにひとつ、星があります。この星は、実際に心臓のようにどきどきしています。ただし、その周期は、300日以上という長いもの。これは、2等星から10等星まで明るさを変える変光星なのです。時折、見えなくなることから「ミラ・ふしぎなもの」という名前前で呼ばれています。



みずがめ座 ～幸せの星たち～



四辺形の西側の辺と、フォーマルハウトの間にあるのが、美少年の姿をしたみずがめ座です。この星座で是非ご紹介したいのが、「幸せの星たち」。一番明るい星は「サダルメリク王様のしあわせ」。隣の星は「サダルスード幸せの中の幸せ」。反対どりの星は「サダクピア秘められた幸せ」。最後の星が「アルバリ・飲むものの幸せ」。特に明るくもない目立たない星たちにもこんなにすてきな名前をつけるなんて、昔の人はとても想像力が豊かですね。



うお座 みずがめ座のとなりには、うお座があります。この二匹のさかなは、実は親子。美の女神アフロディーテとその息子エロスの変身した姿です。



アンドロメダ座とペルセウス座 ～h-χ 散開星団～



今度は、四辺形の左上の星からたどってみると、美しい姫君の星座アンドロメダ座があります。化けくじらから国を守るために、自ら進んでいけにえとなった時の姿です。あわや、というところで助けに駆けつけたのが、ペルセウス座。剣を高く振り上げて、いかにも勇ましい姿ですね。ペルセウス座にある天体が、h-χ (エイチカイ) という散開星団。はっきりとふたつの固まりに見えることから、「二重星団」とも呼ばれています。



ペガサス座 ～ペガサスの四辺形とギリシャ神話、M15 球状星団～

秋の四辺形、別名を「ペガサスの四辺形」といいます。星空に大きく翼を広げた天馬ペガサスの星座です。ペガサスが登場するギリシャ神話は、いくつかありますが、中でもちょっと変わっているのが、山の成長を止めた物語。昔、女神たちの歌声コンクールを聞いて、ヘリコン山という山が楽しさのあまり、どんどん高くなっていった時、このままでは、天が壊れてしまうというので、ペガサスが前足でちょいちょいとけ飛ばして、くいとめたというのです。そのとき出来た地割れからは、水が湧き出て泉となったとか。ペガサス座の鼻先には、数十万個の星が丸く集まった、球状星団、M15 があります。



秋の星座たち

秋の星巡り、もう一度、通して見てみましょう。台風や長雨で、なかなか晴れた星空を見るチャンスが少ない秋ですが、台風一過の星空は、驚くほど澄んでいますよ。

あき

の星座解説

(約 15 分)